巻頭特集

救った命に輝きを、幸せを

NPO法人 DOG DUCA

特定非営利活動法人 ドッグデュッカ

人と犬との共生を考え、
捨て犬や飼育拒否された犬の
保護活動や里親捜しをする
特定非営利活動法人ドッグデュッカ。
「人と犬とのより良い共存生活」をテーマに
行政と連携し、
「殺処分ゼロ」の地域社会を目指して
保護した犬たちにたっぷりの愛情を注ぎ、
しつけのトレーニングをし直して、
新しい里親とのめぐり合い、
幸せの橋渡しを行っています。

どの犬もトリマーがきちんと手入れをしているのできれい。みんな人に愛されたい、いい子ばかり

特定非営利活動法人 ドッグデュッカ／代表 高橋亞さん
ドッグトレーナーの専門学校で講師も務め、「過保護も良くないですね。私がリードを持てばすぐに服従できる犬もいます。愛情があれば大丈夫。しつけなどに悩んだらまずは気軽に相談を。飼い主と犬とが共存できるのが一番」

NPO法人 DOG DUCA

（特定非営利活動法人 ドッグデュッカ）
名古屋市守山区金屋1-23-26
052-795-5003
http://dogduca.sunnyday.jp

犬たちの生活費、病院代、飼代、去勢避妊手術などで、経費は年間約500万円。併設する「わんわん保育園」でのトリミング、しつけ教室、物販の収益や寄付金が増えれば保護活動資金が増えます。ドッグデュッカでは地域の人々へ里親募集はもちろん、できる範囲での協力も呼びかけています。

を飼い始めます。デュッカと名付けたその犬は、高橋さんのパートナーとして、新たな家族になりました。

借金返済のために昼は弁当を売り、夜は料理人として働きました。忙しいなかでもデュッカと遊ぶために午後から鶴舞公園へ行っていました。そこには犬の散歩に訪れる大勢の人がおり、自然と仲間ができていったといいます。

「デュッカにどれだけ救われたことか。絶望感や寂しさが次第に薄れて心が癒されていきました。仲間との話題といえばしつけや病気のことで、いつしか『犬の仕事がしたい』と思うようになっていました」。仲間の中には、警察犬の指導員もいました。マンツーマンでトレーニング方法を伝授してもらい、トリマーや訓練士資格を取得。「わんわん保育園」を開業しました。

犬と関わる仕事を始めて目にしたのは、犬の保護や殺処分の問題についての現実。「動物愛護センターと連携した保護活動の受け皿になりたい」。そう願った高橋さんは平成22年、ドッグデュッカを設立しました。

もう二度とこの犬たちを不幸にしないために

昨年5月、守山区で逃げ出したドーベルマンが近くにいた人などに次々と噛みついた事件がありました。捕獲され殺処分される可能性が高かったドーベルマンにトレーニングを行ったのも高橋さんです。「光り輝くように」と願いをこめてヒカルと名付けられたドーベルマンは、訓練のなかで人とのふれあいを覚え、里親のもとへ巣立っていったのです。

「犬の噛み癖や吠え癖などの問題行動は飼い主、人間が犬の本能や心理を知らないという知識不足が引き起こす。犬をダメにする原因は人。しつけが上手くいかないと虐待や飼育拒否につながる」といい切ります。「飼い主に見放された犬は心の病にかかり、みんなひどく臆病になっているのですよ」と続けました。

顔や身体にひどい虐待を受けた犬は、訪れた人を遠巻きに見ているだけでした。しかし、ここでの生活で心の健康を取り戻しつつある犬たちは、うれしそうにすり寄ってきます。「なでて」、「一緒に遊ぼう」と、ねだってくるほど人が好きですっかり懐いています。里親に引き渡される前までに、おいでやおすわり、伏せ、待て、ついて（リードがたるんだ状態で飼い主の横について歩くこと）ができる、服従トレーニングを修了します。

「里親の家族構成や飼育経験などでベストなマッチングをしています。命を保護するという意識がしっかりある人へ命をつなぐ。里親さんからの紹介も多く、うれしく思いますね」。

地域活動として高齢者施設などでのアニマルセラピー、下校時の「わんわんパトロール」などで社会での犬の活躍をアピールするほか学校を訪問し、「いのちの授業」という講演もしています。センターに保護された犬たちが冷たい施設のなかでどんな気持ちでいるのか、殺処分の方法が安楽死ではない真実を知った子どもたちからは「人間の手で命を絶つなんて間違っている」、「命を救うにはどうすべきか」などの意見や言葉が飛び交うそうです。高橋さんは、「この現実を変えられるのも人間。飼い主になる前に、正しい知識と飼育方法を知ること。犬を捨てない飼い主を増やせば必ず解決できる。現実を変えていこう」と力を込めて伝えています。「ドックデュッカは今後も命の大切さ、犬だけでなくペットとのより良い共存生活のために情報発信基地として活動し続ける」と意気込みました。

わんわん保育園での健康チェック、しつけの成果、トレーニング内容を飼い主に伝える「れんらくノート」

保護された命の現状 団体設立の経緯

噛みつく、吠えるなどの問題行動や引っ越しなど飼い主の都合で捨てられた犬。平成25年度の名古屋市動物愛護センターに収容された数は385頭にのぼります。飼い主のもとに戻ったり、里親に譲渡されたりする犬もいますが、手を尽くしても85頭が高齢や病気などの理由で殺処分されています。

行政では保護された犬を専門家に預けて訓練した後に里親探しをする「譲渡ボランティア制度」を施行。一頭でも多くの犬を殺処分から救おうと取り組んでいます。

そのボランティアのひとつがドッグデュッカです。昨年度、20～30頭をセンターから引き取り、また飼育拒否で直接連れてこられた40～50頭の犬を保護しました。

「9割以上の犬たちを良い里親のもとに譲渡しました。高齢犬やひどい虐待を受けた7頭だけは、私が最後まで看取ることにしています」と高橋忍代表。市内で活動する譲渡ボランティアの数も現在は団体・個人で30以上に増えており、犬の殺処分数は減少しました。しかし、こうした活動が社会に少しずつ認知されることで、飼育拒否する人が犬を直接持ち込む件数も年々増えています。

高橋さんは以前、飲食店を経営していましたが、18年前、3号店を出店しようとしていた時に詐欺に遭い、多額の借金を背負いました。人間不信に陥り、人生に絶望を感じていた高橋さんは犬

犬の注意を集中させるために、目を見て話しかける高橋さん。その目をじっと見つめる様が愛らしい（写真上）。路上で訓練中のエアデールテリア。トレーナーにきちんとついて等距離を保って歩きます

文／naoko　写真／野村光昭　デザイン／HANZO（GOZEN4A ART WORKS）